

本時の視点	国語科での言語活動の経験を活用して、生徒が自分の思いを語り合ったり、自分の価値意識をもって批評し合ったりする学び合い活動を活性化させ、美術作品のよさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を育む。
-------	---

1 題材 ジャポニズム国境を超える美術

2 目標

- (1) 東西美術の交流に関心を持ち、主体的に美術文化への理解を深めようとする。
(美術への関心・意欲・態度)
- (2) 浮世絵と西洋の美術作品の相違と共通性に気づき、それぞれのよさや美しさを味わう。
(鑑賞の能力)

3 題材について

本題材は、学習指導要領美術・第2学年及び3学年の内容B鑑賞(1)ウ「日本の美術の概括的な変遷や作品の特質を調べたり、それらの作品を鑑賞したりして、日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違と共通性に気づき、それぞれのよさや美しさなどを味わい、美術を通じた国際理解を深め、美術文化の継承と創造への関心を高めること。」に基づいて設定した。日本独自の「浮世絵」と西洋の美術作品を比べ、形や色彩の特徴、それらがもたらす感情、捉えたイメージの違いや共通性について意見を交換したり、考えを伝え合ったりすることを通して、よさや美しさなどを味わう鑑賞の能力を高めることをねらいとしている。

中学校学習指導要領解説美術編第2節美術科の内容には「鑑賞は単に知識や作品の定まった価値を学ぶだけの学習ではなく、知識なども活用しながら、様々な視点で思いを巡らせ、自分の中に新しい価値をつくりだす学習である。」と示されている。このような鑑賞の学習を推進していくために、生徒相互のコミュニケーションを重視した鑑賞を行ってきた。これまで生徒は、作品から感じ取ったことを考え、まとめ、話し合う対話型の鑑賞(ニューヨーク近代美術館が開発した方法)や、記述、分析、解釈、評価という四つの段階を経ながら作品を探究的に鑑賞する比較鑑賞(アメリカのE・B・フェルドマンの理論に基づく方法)などを経験している。授業後に行った生徒の自己評価は以下のような結果だった。

(平成27年 ■=4月*日 ■=7月*日 男子*人 女子*人 計35人 調査)

Q1 感じたことや考えたことを、根拠を明らかにして伝え合うことができたか?		Q2 自分の中で問い返したり他者の見方も取り入れたりしながら、鑑賞を深めることができたか?	
できた	■ 15人 ■ 19人	できた	■ 17人 ■ 20人
ある程度はできた	■ 14人 ■ 13人	ある程度はできた	■ 15人 ■ 13人
あまりできなかった	■ 6人 ■ 3人	あまりできなかった	■ 3人 ■ 2人

■=対象：各地のゆるきやら, 方法：対話型鑑賞 ■=対象：コロ「真珠の女」等, 方法：比較鑑賞

4月と7月の結果を比較すると、Q1、Q2ともに肯定的な回答をする生徒が増えている。また、授業中の観察やワークシートの記述などからも、各生徒が作品に対する自分の考えを伝え合うことにより、一人では気付かなかった視点や価値に気づき、見方や感じ方を深めている様子が見られる。そこで、本題材でも、生徒が自分の思いを語り合ったり、自分の価値意識をもって批評し合ったりする活動を取り入れる。その際、国語科の単元「聞き取って吟味しよう」と連携する。この単元では、考えや根拠を吟味することを通して、問題意識をもって相手の話を聞き、自分の考えと比較する学習を行った。この国語科での言語活動の経験を活用し、「浮世絵と西洋の美術作品の相違と共通性」という視点を基に語り合わせることで目標の実現を図る。

4 学習と評価の計画（2時間扱い）

時	学 習 活 動	評価の観点				主 な 評 価 規 準
		関	発	技	鑑	
1	浮世絵やジャポニスムの作品を鑑賞し、日本的モチーフの借用、構図の借用など、浮世絵からの影響に関心をもつ。	◎			○	東西美術の交流に関心をもち、主体的に美術文化への理解を深めようとしている。
② 本時	浮世絵と西洋の美術作品を比べ、形態の表し方の違いや共通性などについて話し合う。	○			◎	浮世絵と西洋の美術作品の相違と共通性に気付き、それぞれのよさや美しさを味わっている。

5 本時の指導

(1) 目 標

浮世絵と西洋の美術作品の相違と共通性に気付き、それぞれのよさや美しさを味わう。

(2) 準備・資料

作品の複製図板、作品の画像、PC、プロジェクター、ワークシート、自己評価カード、海外で脚光を浴びている日本のマンガやアニメの映像

(3) 本校人権教育の視点との関連

他者と考えを交流させ互いに学び合う活動を通して、他人の考えや立場を尊重する態度を育てる。

(視点1)

(4) 展 開

学 習 活 動 ・ 内 容	支援と評価 (◎は研究の視点, ■は人権教育の視点)
<p>1 前時の学習を振り返る。</p> <p>(1) 時代背景にはどのような変化があったのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・写真の普及 ・チューブ絵の具の普及 <p>(2) 浮世絵は西洋の美術作品にどのような影響を与えたのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1段階=扇や屏風など日本的なモチーフの借用。 ・第2段階=のぞき構図、俯瞰構図など構図の借用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本的なモチーフを借用したゴッホの「タンギーじいさんの肖像」や、のぞき構図を借用したモネの「すいれん池の橋」などを見ながら、前時の学習を振り返る。 ・作品はプロジェクターでスクリーンに映して生徒に提示する。その中から代表的な作品を選び複製図板を黒板に掲示しておくことで、生徒が本時の学習の経過を振り返ることができるようにする。 ・1800年代に普及した写真やチューブ絵の具が、画家の活動に変化をもたらしたことや、「見えるものを見るままに描く」ことに行き詰まった西洋絵画は、ジャポニスムなど異文化の影響によって打開されたことを押さえる。
<p>2 本時の学習課題を捉える。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">浮世絵と西洋の美術作品を比べ、よさや美しさを話し合おう。</p>	
<p>3 浮世絵とジャポニスム以前の西洋絵画を並べて鑑賞する。</p> <p>(1) 個人で鑑賞する。</p> <p>① 浮世絵とジャポニスム以前の西洋絵画の違いを探し、付箋に書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陰影の有無 ・輪郭線の有無 	<ul style="list-style-type: none"> ・浮世絵とジャポニスム以前の西洋絵画を比較することで、当時の西洋の画家たちが感じた浮世絵のよさや美しさについて考える。 ・「西洋絵画にあって浮世絵にないもの、浮世絵にあって西洋絵画にないものを見つけてみましょう」と問い、生徒が陰影や輪郭線の有無などの違いを見付けやすくする。 ・違いを見付けるのに時間がかかっている生徒には「他にはこんな作品もあるよ」と追加の資料を与え、全生徒が自分の考えをもって次のグループ活動に入

- (2) グループで鑑賞する。
- ① 3, 4人のグループをつくる。
 - ② 付箋に書いたことを発表し合う。
 - ③ 質疑応答により、それぞれの見方や感じ方を交流し、浮世絵とジャポニスム以前の西洋絵画の違いについてまとめる。
 - ④ ③でまとめたことを基に、当時の西洋の画家たちが感じた浮世絵のよさや美しさについて話し合う。
 - ⑤ グループで話し合ったことを代表者が発表する。

	陰影	輪郭線
浮世絵	ない	ある
西洋絵画	ある	ない

4 浮世絵とジャポニスム以後の西洋絵画を並べて鑑賞し、浮世絵の影響について意見交換を行う。

- ・第3段階=形態の表し方の借用（輪郭線で対象を捉える。平面的に彩色する。）

5 本時の学習をまとめる。

- (1) 授業の振り返りカードを記入する。
 - ① 浮世絵と西洋の美術作品の相違と共通性について分かったこと。
 - ② 授業で取り上げた浮世絵やジャポニスムの作品のよさや美しさについての感想。
- (2) 記入した内容を発表する。
- (3) 映像を見ながら、教師の説明を聞く。
 - ① マンガやアニメから感じる浮世絵との共通性とは？
 - ・美術的な権威とは無縁の大衆文化である。
 - ・様々な情報を分かりやすく、できるだけ安く提供している。
 - ・輪郭線による形態描写や、平面的でクリアな画面。

6 次時の予告をする。

れるように支援する。

◎国語科「聞き取って吟味しよう」での学習を想起させ、問題意識をもって発表を聞き、疑問点については積極的に質問するように促す。

・絵に描かれたどの部分から「違う」と判断するのか根拠を明確にするように助言する。

◎それぞれの見方や感じ方を根拠に基づいて交流させ、一人では気付かなかった視点や価値に気付くようにする。

■実態によって「人の意見を笑ったり、冷やかしたりしない」ことをその場で指導する。

・グループの代表者の発表を補足しながら、西洋絵画が「見えるように描く」ために、影を使って立体感を出し、輪郭線を排除していったことや、浮世絵が線描を表現の基本にして、影を使わなかったことを押さえる。

・ゴッホ、ゴーギャン、ロートレックのポスターなどを提示する。感じたことを自由に言葉にするように生徒に促し、全体での意見交換によって浮世絵からの影響に気付くようにする。また、第1, 2段階までは日本と西洋の折衷様式であったが、第3段階では全面的な浮世絵への傾倒であることを押さえる。

(評) 鑑賞の能力(観察・発表・ワークシート・振り返りカード)
浮世絵と西洋の美術作品の相違と共通性に気づき、それぞれのよさや美しさを味わっている。

・授業中における生徒の表情、視線、話合いに参加する姿勢などをよく観察して評価する。観察で発言等が見られなかった生徒に対しては授業後に教師が対話することで補完し、評価する。

・日本のマンガやアニメが、現代のジャポニスムとして海外で脚光を浴びていることや、浮世絵も西洋人が評価しなければ、現在は残っていなかったかもしれないことを映像で紹介し、美術的な権威や社会的な地位だけでなく、作品そのもののよさや美しさに目を向けることの重要性を話す。

・教科書P18「ゲルニカ」を鑑賞し、感じ取ったピカソの思いや願いを色や技法を工夫して表現することを予告する。